



医師の立場から安全な登山の普及を目指して 救急科上小牧医師がテレビで解説しました

2016年より、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを目的に8月11日が山の日として祝日に制定されたことで、当院救急科の上小牧憲寛医師がとちぎテレビの取材を受けました。上小牧医師は国内36人、県内で3人しかいない認定国際山岳医のひとりです。

登山は病気予防や健康増進につながることが科学的に認められている一方で、遭難事故等のリスクもあります。昨年の遭難者数、死者・行方不明者数は記録が残る1961年以降最多で、こうした山岳事故を少しでも防止することが求められており、日本登山山岳医会が啓蒙活動をしています。山での事故が増加傾向にある中、医師の立場から安全な登山の普及を目指すため、今回は6月24日放送の情報番組内で、上小牧医師が登山を行うまでの注意点や日常生活で心掛けた方がいいことなどを分かりやすく解説しました。



「救急探検ツアー」に親子25人。大人だって興味津々！



次に放射線科に行き、診療放射線技師の小林桂副部長からCT室やカテール室などの放射線装置についての説明を聞きました。あいにくの曇り空でしたが、最後はヘリポートを見学し終了となりました。

カテール室やヘリポートなど普段見ることのできない現場に、子ども達だけでなく保護者の方も興味津々でした。1時間という短い「探検」でしたが、子ども達にとって夏休みの楽しい思い出のひとつになればいいなと思いました。

7月26日、宇都宮市と同市救急医療対策連絡協議会の共催で「救急探検ツアー」が行われました。参加したのは、同市で募集した小学3年生から6年生までの子ども達とその保護者26名です。

今回で6回目となるこのツアーは「市民に救急医療の現場に触ることで、救急受診への理解を深めてもらう」ことが目的です。見学先は、宇都宮市夜間休日診療所、消防本部、当院の救命救急センターの3カ所です。

当院ではまず救急医療の専門医である加瀬建一先生がスライドを使用して「救急」の概要を説明しました。その後、救急外来へ行き処置室内を見学。



「医師になりたい」 中学生を対象にブラック・ジャックセミナーを開催



8月6日、ブラック・ジャックセミナーを開催しました。本セミナーは、中学生を対象に、医療現場への関心を高めてもらいたいと企画し、42名の方にご参加頂きました。参加者は、当院の医師の指導のもと、メスやピンセットを使い皮膚に立てたスポンジを縫合したり、超音波メスで鶏肉を切るなどの手術体験をしました。

参加者からは「この体験を通して、医師になりたいという気持ちがさらに強くなった」「普段できない体験が出来て医療に更に関心が持てた」等のコメントが聞けました。スタッフ一同も大満足です。